

第3回熊本県立特別支援学校における適切な 指導の在り方等検討委員会概要

- 1 日時：令和2年（2020年）10月19日（月）午後1時30分～午後3時
- 2 会場：水前寺共済会館グレースシア 2階孔雀
- 3 委員：

(1) 学識経験者

熊本大学大学院教授 干川 隆（委員長）

(2) 特別支援学校保護者代表

熊本県特別支援学校PTA連合会前会長 宮村 勇一郎（副委員長）

(3) 特別支援学校長

熊本県特別支援学校長会前会長 中島 徹

(4) その他特別支援教育に関する知識や経験を有する者

社会福祉法人玉医会 統括施設長 金和 史岐子

4 会議の経過

(1) 提言書（案）について、事務局からの説明

(2) 意見交換

5 各委員からの意見及び指摘事項

指導に問題があると判断された、又は、見うけられる教職員に対しては、一度、担当から離れ、個別に研修を受ける機会を設けるなどの仕組みをつくることも重要である。

実態把握に基づき個別の指導計画を作成し、それに基づいて指導・評価していくことが子供の人権を守ることにつながる。

多角的な視点から意見をもらいながら指導や支援を行うためのシステムや体制づくりが 必要なのではないか。

子供たちを支える中で警察の存在は大きい。関係機関の中に警察という文言が入ることで、連携を図りやすくなると考える。

特別支援コーディネーターという名称は聞いたことはあっても、その役割を理解している保護者は少ないのではないか。学校通信にコーディネーターの欄を設けるなどして周知すると、保護者も気軽に相談できるようになるのではないか。

以上のような意見を踏まえ、今後、提言書をまとめ、委員長から教育長へ手交することとなった。